



1 平成11年度も健全財政



平成11年度も引き続き健全な財政を維持しながら、くらし日本一のまちづくりを実現するための主要な事業を行いました。

公民館および小中学校との情報ネットワークの整備や、白石スキー場の改修およびペアリフトの新設、白石第一小学校の大規模改造など、21世紀に向けた基盤整備が着実に成果を上げました。

財政の健全性を示す経常収支比率は73%(全国671市中35位)、起債制限比率が4.6%(同8位)と驚異的な数字を示しています。

このように、白石市は財政状況が良いことから、平成13年度以降、市債を活用した事業を行う場合には、借入れの手続きが簡単で済むようになります。

2 刈田病院建設工事に着手

平成14年春の開院に向けて8月28日、移転先の福岡蔵本の建設地で起工式が行われました。新病院は、利用者にわかりやすい病院、快適な癒(いや)しの環境を持つ病院などを基本に置いて建設されています。

さらに、県内病院としては初の免震構造を導入し、阪神大震災クラスの地震にも耐えられる災害拠点病院として、住民の生命を守る役割を担います。これを高く評価されて、東北大学医学部長の久道茂先生が起工式に出席されました。これは異例のことです。

また、白石女子高衛生看護科を履修した生徒を対象にする「専攻科」の実習棟は、新病院内に設置される予定です。



3 白石型福祉・着々と推進

介護保険施行に伴い、介護保険対象外となる在宅の高齢者に対して、要介護状態にならないように、そして



自立した生活を支えるため、白石市独自の高齢者福祉施策(「温泉デイサービス」「配食サービス」「ホームヘルプサービス」「ショートステイ」「紙おむつ給付」)を開始しました。

また、ノーマライゼーションの理念に基づき、障害者と健常者が交流できる施設「福祉プラザやまがき」が10月にオープン。さらに、心身に障害のある方に対し、スパッシュランドなど市内のスポーツ施設利用料金の一部を助成するなど、福祉の向上を図りました。

4 市民活動支援センターオープン



11月1日、市内のNPO(民間非営利団体)やボランティア団体の活動をサポートする「白石市民活動支援センター」が、城東コミュニティセンターわきにオープンしました。

このセンターには、事務室や会議室、作業室が設置されており、事務所などを持たない団体が安い料金で活動の拠点に利用でき、市民活動団体相互の情報交換・活動の支援にも役立っています。

センターの運営管理は、ボランティア団体などでつくる「白石市民活動フォーラム」が行っています。

5 26年ぶりに女性市議が誕生



10月29日に執行された白石市議会議員補欠選挙で、吉田貞子さんが当選しました。これで昭和49年4月の補欠選挙以来、26年ぶりに女性市議が誕生したことになります。

6 利用しやすい「つくし公園」

自然を満喫できる「どうだんの森」開園手作り公園「つくし公園」

計画づくりの段階から自治会や老人クラブ、母親グループなど、住民参加によるワークショップを開いて整備を進めてきた「つくし公園」が4月9日、碧水園向かいに開園しました。住民のアイデアが反映され、幼児からお年寄りまで楽しめる公園となりました。

管理運営も利用者と田町自治会でつくる「つくしの会」が行っています。このことが、ワークショップの成果として全国的に高く評価されています。



「どうだんの森」
水芭蕉の森に隣接するサラサドウダンの群生地に、木道などを整備した「どうだんの森」が完成し、5月29日に開園しました。昨年、水芭蕉の森、どうだんの森、スパッシュランドパークのシバザクラに、合わせて約85,000人の観光客が訪れました。

7 より良い環境を未来へ

全国産廃問題市町村連絡会
厚生省、環境庁に初の意見書を提出

全国34市町村で組織する「全国産廃問題市町村連絡会」の会長などとともに5月16日、厚生省や環境庁を訪れ、産廃行政にかかわる意見書を提出しました。この意見書には、産廃処分場の立地規制や公共関与の推進などの10項目が盛り込まれています。これが国の方針に対して影響を与え、特に公共関与に対しては国が大きく方向転換しつつあります。

「ISO14001」取得に向け庁内組織発足
市では、環境保護に取り組む事業所に与えられる



国際規格「ISO14001」の平成13年度中の認証取得に向け、プロジェクトチームを発足しました。

これは、認証の取得が目的ではなく、市役所が率先して、燃料や紙の使用を減らして同規格を取得することで、将来的に企業や市民の間にも環境保全に対する取り組みを拡大普及させていくことを最終目標としています。

8 みやぎ国体の開催機運高まる

全日本新体操選手権大会(国体リハーサル大会)が11月23日から26日まで、みやぎ国体新体操競技



の会場となるキューブで開かれ、市民は超一流の演技を堪能しました。開会式では、キューブ新体操教室やキューブ合唱団などに所属する市民が出演し、全国から来白された選手を心から歓迎しました。

9 市民が中心市街地

活性化に取り組む



市内の若手経営者や消費者などをつくる「白石市中心市街地活性化事業計画策定委員会」が、空き店舗の活用など、にぎ

わいづくりの具体策を盛り込んだ報告書を市に提出し、これを基に「白石市中心市街地活性化基本計画」が策定されました。この中には、市民がワークショップで検討を重ねてきた刈田病院の跡地利用活用案も反映されています。

また、若手商業者グループも寿丸屋敷などを活用しながら、商店街の活性化に取り組みました。

10 公共施設ネットワーク整備の推進

公共施設ネットワークは、平成10年度から情報センター「アテネ」を中核拠点として整備を進めてきましたが、今年度新たに、郵政省の補助事業である地域イントラネット基盤整備事業の採択を受け、全公民館のほか、図書館、キューブ、アルタ、あしたば白石もアテネと接続され、生涯学習活動状況などの情報発信ができるようになりました。



深谷小の三住分校と深谷小、白石第二小の3校で9月27日、テレビ会議システムを利用した共同授業の公開研究会が行わ

れ、全国から教育関係者など220人が参加しました。

このように、IT関連で白石市は東北のトップを走っています。